

口永良部島の火山活動について(第14報)

1. 本省及び地方支分部局の体制について

国土交通本省	5月29日	10:08	非常体制「当該災害に関する対策本部設置」				
九州地方整備局	5月29日	10:08	非常体制	九州運輸局	5月29日	10:08	非常体制
国土地理院	5月29日	10:08	非常体制	気象庁本庁	5月29日	10:07	非常体制
国土技術政策総合研究所	5月29日	10:08	非常体制				

2. 噴火の概要

- 新岳では、5月29日9時59分に爆発的噴火が発生した。
- この噴火により、噴煙が火口上9,000m以上まで上がった。また、火砕流が発生し、新岳火口の南西側から北西側(向江浜地区)方向の海岸まで達した。
- 昨日(9日)9時以降、山頂付近は雲のため噴煙の状況は不明。噴火は発生していない。

3. 気象の見通し

- 今日10日と明日11日は、雨で雷を伴い激しく降る所がある見込み。急な強い雨や落雷、突風に注意。
- 12日(金)以降も、雨の降る日が多い見込み。

4. 島民の避難状況(島民等138名が屋久島に避難完了)

- 番屋ヶ峰から3名が防災ヘリにより搬送済み。(火傷1名、心臓病1名、付添者1名)
- 湯向集落の6名を海上保安庁の巡視船「さつま」に收容し、「さつま」から海保ヘリで屋久島に搬送済み。
- 番屋ヶ峰の避難者125名乗せたフェリー太陽が屋久島宮之浦港へ5/29 17:30に到着し、5/29 18:45ごろに乗船者全員が無事に上陸
- そのほか、3名は漁船で避難、1名は発災時屋久島に所在。
- 5/29 17:32時点で島内の所在者なしを確認。(消防、屋久島町役場、県職員、警察、海上保安官が全て離島。)
- 屋久島の3カ所の避難所は次の通り。
 - ・宮之浦老人憩いの家
 - ・宮之浦公民館
 - ・屋久島町福祉センター

5. 島民等の一時帰島(入島)について

- (6月1日)
 - 口永良部島内の防火・防犯対策等のため、本村地区23名、湯向地区6名の島民等計29名が漁船3隻により一時帰島(入島)。
 - 2地区(本村地区・湯向地区)29名全員の現地作業が終了し、全員無事一湊港(屋久島町)へ帰港。
 - 自衛隊・国交省・鹿児島県警のヘリ、海上保安庁巡視船により、監視等を実施。
- (6月4日)
 - 島内の電源復旧等のため、九州電力、気象庁、消防団等24名が海上保安庁巡視船や漁船により一時入島し、復電作業等を完了。
 - 国交省ヘリ、海上保安庁巡視船等による、監視や搬送支援等を実施。

6. 国土交通省の対応

- ・5/29 11:50 第1回対策本部会議開催(大臣指示)
- ・5/29 14:50 第2回対策本部会議開催
- ・5/30 10:30 第3回対策本部会議開催
- ・5/30 12:15 うえの政務官が現地入りし鹿児島県知事と意見交換等を実施
 - ・屋久島町長と電話会談
 - ・鹿児島県知事と意見交換
 - ・第10管区海上保安本部における激励
 ※天候の悪化により、防災ヘリによる上空からの調査と屋久島町長との直接の会談ができなかった

○リエゾン(情報連絡員)派遣

- ・海上保安庁より1県1町へ、のべ28人・日派遣(5/29~6/10)。

(単位:人)

派遣場所	5			6										合計	
	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
鹿児島県	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
屋久島町	2	0	0	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	23	
合計	5	2	0	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	28	

- ・気象庁より1県1町へ、のべ44人・日派遣(5/29~6/10)。

(単位:人)

派遣場所	5			6										合計
	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
鹿児島県	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
屋久島町	2	2	2	2	2	2	3	4	5	4	4	4	4	40
合計	4	3	2	3	2	2	3	4	5	4	4	4	4	44

- ・九州地方整備局より1県1町へ、のべ41人・日派遣(5/29~6/10)。

(単位:人)

派遣場所	5			6										合計
	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
鹿児島県	3	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	11
屋久島町	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	30
合計	6	5	5	5	4	2	2	2	2	2	2	2	2	41

- ・九州運輸局より1県へ、のべ12人・日派遣(5/29~6/3)。

(単位:人)

派遣場所	5			6			合計
	29	30	31	1	2	3	
鹿児島県	2	2	2	2	2	2	12
合計	2	2	2	2	2	2	12

○国土技術政策総合研究所、土木研究所による調査職員の派遣

- ・火山・土石流溪流の降灰状況調査のため、鹿児島県へ国土技術政策総合研究所より1名、土木研究所より1名、2人・日派遣(6/4)。
- ・ヘリ調査を実施し、火山灰や火砕流堆積物の二次移動状況について確認。土石流危険溪流となっている向江浜川からの土砂流出を確認(6/4)。

○TEC-FORCEの派遣

- 九州地方整備局より、防災ヘリコプターによる上空からの被災状況調査、映像配信、海煌による資機材運搬、情報収集のため、のべ104人・日派遣(5/29～6/10)。

(単位:人)

派遣元	派遣内容	5			6										合計
		29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
九州地整	被災状況調査(ヘリ)	4	3	3	5	0	0	4	0	3	0	0	0	0	22
	映像配信	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	26
	資機材運搬	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	情報収集	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	現地活動支援	0	3	4	4	3	3	4	4	3	3	3	3	3	40
合計		8	11	10	12	6	6	11	7	9	6	6	6	6	104

○防災ヘリコプターによる状況調査

- 九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施(5/29)。TEC-FORCE及び福岡管区气象台で、火山灰及び火砕流の分布状況について確認。
- 九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施(5/30)。
- 九州地整防災ヘリコプター及び四国・中国地整局防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施(5/31)。TEC-FORCE及び福岡管区气象台で、降灰状況、土石流危険渓流等について確認。降雨後の顕著な土砂移動は確認されなかった。なお、天候不良により、火口周辺及び渓流上流部は視認できなかった。
- 九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施、また一時帰島時の支援として火口周辺の上空監視を実施(6/1)。TEC-FORCE及び福岡管区气象台で、降灰状況、土石流危険渓流について確認。5/30の降雨により一部で火山灰が流れた痕跡を確認したが、火口周辺及び渓流上流部も含め、顕著な土砂移動は確認されなかった(6/1)。
- 九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施。また一時入島時の支援として火口周辺の上空監視を実施予定(6/4)。TEC-FORCE、国総研、土木研究所、鹿児島県、福岡管区气象台等で、降灰状況、土石流危険渓流等について確認(6/4)。
- 九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施し、TEC-FORCE及び福岡管区气象台で、降灰状況、土石流危険渓流等について確認(6/6)。

○災害対策用機械等出動状況

整備局名	出動先	出動理由	機械名	台数	状況	期間
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	火山監視	Ku-SAT	1	稼働後待機中	5/29～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	現地支援	情報収集車	1	稼働後待機中	6/1～
九州地整	屋久島町小瀬田	現地支援	待機支援車	1	稼働中	5/30～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	ヘリ映像中継	可搬ヘリテレ	1	稼働後待機中	5/30～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	ヘリ映像中継	Ku-SAT	1	稼働後撤収済み	5/30～6/2
九州地整	鹿児島県屋久島町役場	監視映像伝送	Ku-SAT	1	稼働中	6/3～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	火山監視	Ku-SAT	1	出動後待機中	6/3～

○調査観測兼清掃船「海煌(かいこう)」出港

九州本島との資材運搬等の輸送に備え、熊本港湾・空港整備事務所の「海煌」が八代港を出港

5/29 13:30 八代港出港

5/30 0:45 鹿児島港入港

5/31 8:50 鹿児島港出港(八代港向け回航)

5/31 19:30 八代港帰還

乗船可能人員 12名(乗務員除く)

○避難者の住まい関係(避難者支援)

- ・ 屋久島島内に利用可能な公営住宅の空き住戸があることを確認
- ・ 宅建協会から鹿児島県に対して、屋久島島内の民間賃貸住宅の物件情報が提供されていることを確認
- ・ 一般社団法人プレハブ建築協会に対し、県から建設要請があった場合には、速やかに対応できるよう準備を要請

○自動車検査証の有効期間の伸長

避難中の住民が所有する自動車の車検証の有効期間が切れ、帰島時の車の使用に支障をきたさないよう、5月29日から7月28日までに車検証の有効期間が切れるものを7月29日まで伸長。

7. 気象庁の対応

- 5月29日10:07 噴火警報(居住地域)を発表し、噴火警戒レベルを3(入山規制)から5(避難)に引き上げ
- 5月29日10:40 火山の状況に関する解説情報を発表
- 5月29日11:10 気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施
- 5月29日11:30 記者会見
- 5月29日13:30、18:00 気象庁災害対策本部会議
- 5月29日16:00 火山の状況に関する解説情報の定期的な発表を開始(毎日10時、16時)
- 5月29日 復旧担当者・被災者向け気象支援資料の提供を開始(毎日5時、11時、17時頃更新)
- 5月29日 気象庁ホームページに口永良部島噴火の関連情報ポータルサイトを開設
- 5月30日 6:40 鹿児島県の協力により、気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施
- 5月30日18:00 火山噴火予知連絡会拡大幹事会を開催し、見解を取りまとめ
- 5月31日13:30 気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施
- 6月1日 14:00 気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施
- 6月1日 16:30 口永良部島に地震計を増設
- 6月2日 16:00 口永良部島に増設した地震計の運用を開始
- 口永良部島停電に伴う気象庁の火山観測機器の稼働状況等
 - ・ 火山の観測網の地震計4点、空振計2点、GNSS3点、遠望カメラ2点、傾斜計1点等のうち、6月2日8時39分に発生した停電等により、地震計1点、空振計1点が停止していたが、6月4日に復旧した。
- 6月6日 11:30 東京大学、京都大学と合同で海上からのガス観測を実施
- 6月6日 13:00 気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施

8. 海上保安庁の対応

5月29日

■巡視船・測量船

- 「拓洋」が本村港沖に到着(11:50)。要救助者搬送準備・フェリー太陽の入港支援を実施
- 「さつま」が湯向港沖に到着(12:32)。搭載艇により島民6名を「さつま」に救助後、ヘリで屋久島空港まで搬送
- 「明洋」が湯向港沖に到着(15:00)。即応待機
- 「とから」が、フェリー太陽の伴走警戒を実施(15:42)
- 「こしき」が本村港沖到着(16:00)。鹿児島から搬送した「警察22名、消防7名」のうち「警察10名」を口永良部島に搬送
- 「くさかき」が鹿児島から「日赤医師等7名及び救援物資」を屋久島に搬送(17:40)

■航空機等

- ヘリが番屋ヶ峰避難所上空に到着(11:58)。機動救難士が避難所に降下し傷病者2名(火傷1名、心臓病1名)を救助、県防災ヘリへ引継
- 「特殊救難隊(1個隊)、関西航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)、福岡航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)」を鹿児島基地に前進配備

6月1日

- 「あかいし」及び「さつま」により、一時帰島への支援業務を実施

6月4日

- 「くさかき」により、九州電力等による停電対応及び地震計整備作業の支援(作業員輸送)を実施

6月6日

○「さつま」により、屋久島町から許可を受けた養豚業者上陸に対する支援業務(洋上警戒)を実施

6月10日

○巡視船2隻を口永良部島周辺海域に配備中(5月30日からの継続対応)

9. 国土地理院の対応

○過去の空中写真および災害対策用図を関係機関へ提供(5月29日)

○口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を撮影(5月29日)

○口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を関係機関へ提供(5月29日)

○口永良部島の噴火周辺地域の空中写真をホームページで公開(5月30日)

○人工衛星(だいち2号)データを用いて口永良部島の地表の状態の変化を面的に把握しホームページで公開(5月30日) URL: <http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h27-kuchinoerabu-index.html>

○口永良部島の噴火周辺地域の衛星画像(LANDSAT)を関係機関へ提供(6月6日)

○前田地区の送電見合わせのため停止したGNSSについて、臨時GNSS点設置のため、屋久島町、気象庁と調整中(6月8日)

10. 所管施設等の状況

○道路関係

・本村と湯向を結ぶ町道は噴石散乱のため通行不能との情報

・本村と番屋ヶ峰を結ぶ町道は通行可能との情報

○河川関係、ダム関係、公営住宅関係、公園関係、宅地関係、下水道関係、官庁施設関係、鉄道関係、自動車関係、航空関係、海事関係、港湾関係、物流関係、観光関係等

・現時点で被害情報なし

問合先:水管理・国土保全局防災課災害対策室 池本 代 表:03-5253-8111 内線35-822 直 通:03-5253-8461
